

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
羽生市	岩瀬（上岩瀬・中岩瀬・ 下岩瀬・小松・桑崎）	令和3年3月1日	令和5年2月21日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	211.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	108.4ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	55.5ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	29.1ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	14.7ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	13.5

注：④の面積は、「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・70歳以上の割合が約48%を占めており、そのうち、農地の「後継者がいない」、「わからない」と回答している割合は約80%である。高齢化が進み、担い手不足が予想されることから、近い将来、耕作放棄地の増加が懸念される。 ・開発が進んでいる地域であり、ほ場が小さく、大型の機械が入りにくいいため、農作業に時間と労力がかかる。 ・鳥獣被害が他地区と比較すると多く発生している。今後も被害が増加することが予想される。 ・今後中心経営体が引き受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・農地利用は、中心経営体が担うほか、他地区を含めた、認農農業者や認農新規就農者の受け入れを推進することにより対応していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・未整備農地については、ある程度の面積をまとめ、中心経営体、または入作を希望する認農農業者や認農新規就農者の受け入れを促進し、高収益作物への転換を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・対象地区内農業を将来にわたり支えていくため、離農する前に、後継者、認農農業者、認農新規就農者に地区の話し合いの場等で声掛けを行うとともに、話し合いの場に受け手がいない場合は、入作を希望する中心経営体の受け入れを促進する。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	澁澤 吉明	水稻	6 ha	水稻	10 ha	上岩瀬
認農	川田 英之	水稻	4 ha	水稻	8 ha	下岩瀬
認農法	ほくさい農産(株)	麦	0.39 ha	麦	0.39 ha	上岩瀬
認農	川田 利光	水稻	5.5 ha	水稻	11 ha	上岩瀬・下岩瀬・中岩瀬
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
計	4 人		15.89 ha		29.39 ha	

注:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、今後個人の認定農業者になる予定者は「認農(予定)」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針 (任意記載事項)

<ul style="list-style-type: none"> ・大規模農業を希望しない農家については、農産物の高付加価値化を図ることにより、経営の安定を目指す。 ・鳥獣被害防止対策の取組を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・機械の大型化に合わせて、農地集積、集約を図る ・梨等の園芸と水稻の複合的経営が盛んであったが、後継者不足により継続が困難な状況にあるため、後継者の育成と新規就農者等を希望に応じて積極的に参入させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・当該地区の中心経営体を中心として営農を継続していくために、地区内で話し合いを充実させる。また、担い手不足の解消のため、新規就農者等の担い手育成・確保に努める。